

研修会

筑波山の自然研究路に参加して

佐藤一枝（千葉市）

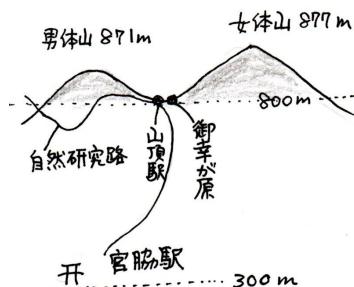
<文とさし絵>

実施日：2010年4月25日（日）

自然観察案内人：田中ひとみ氏（つくば環境フォーラム代表）

指導員：23名 担当指導員：盛一昭代

今回はケーブルカー組と齋正雄氏（当会々員・日本山岳ガイド協会々員）の指導で登山する組とで登山し、研究路で合流した。



本日のコース

つくば駅からシャトルバス9:00～筑波神社入口。神社宮脇駅でケーブルカー～山頂駅到着

- ◎《男体山・自然研究路の探索》
- ◎ 御幸が原で昼食
- ◎ 講義（つくば山の生態系）田中ひとみ講師
- ◎ 女体山登山・下山

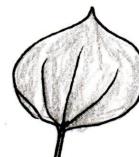
女体山駅でロープウェイ～つつじヶ丘駅 シャトルバス～つくば駅着 16:00 解散

4月18日の下見の折は雪の下ということでしたが、シャトルバスからの筑波山中腹は“山笑う、山匂う”季節でとても美しく、私たちを歓迎してくれているようでした。

[I] 筑波神社（標高300m）

マルバクスがあるという！？葉の形が円く、珍しいクスノキですと。

円葉タイプのクスノキと思ったら、牧野（富太郎）氏により新種として命名され、標本となっている木と教えて頂く。



[II] 研究路は男体山の肩あたりでしょうか。一周1.5km、60分で回れるコースです。

地形についての説明板には、<3億年前の褶曲運動で褶曲山脈となる～深成岩が地表に現れたもの>～部分は覚えられなかった。

フモトスマレ ハルトラノオを見て進むと、黒い巨岩が外の景観を塞いでいる。

この黒い岩には、縦に亀裂があったのが気になる。

スタッフの方が火山ではなく、深い所にあった岩が地表に現れたものです、という。

今日は田中講師といっしょに、野村様と、東葛Gでつくばファンクラブの皆様がご案内下さる。

大入道のように4～5mはある黒い岩があり、すきまから外をのぞくと、なかなかの景色でした。

枯れ葉1枚？ いえイワタケ、ですって。白花のエイザンスマレ ユキザサ

ミミガタテンナンショウ 足を釘づけにするピンクのエイザンスマレ

ブナの大木などを見て下ると、ニリンソウが谷まで続く群生…。

植生も キクザキイチゲ → 林床が笹原 → ユリワサビ・トウゴクサバノオと移行していた

※ 根の張りめぐらす笹の中に生きるカタクリの強さ、凄さを見せつけられ ← その証拠に

1枚撮る

筑波山で名前がつけられたもの → 新種・標本(タイプ標本・タイプ産地)

筑波山のタイプ産地とする植物—ツクバキンモンソウ、ツクバトリカブト、
クモキリソウ、オオナルコユリ、ホシザキユキノシタ、マルバクス

[III] 講義=つくばの生態系(田中講師)素晴らしい資料のもとに…

- フォーラム・ファンクラブの紹介・植物調査
- ヤマトグサ
- ブナの分布 GPSにより位置を記録、

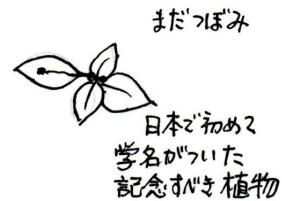
胸高直径、樹冠位置、衰退度を測定

結果は 40ha にブナ 2051、イヌブナ 5、ブナの直径平均 38cm 最大 143cm

☆ 直径 10cm 以下の木は非常に少なく、次世代をになうブナが欠如している傾向

ブナは尾根沿いに多く、谷沿いや凹地にはほとんど生育していなかった。

細いブナは男体山北西面、女体山南面に多く分布…etc.



[IV] 女体山登山

その入口に先程お話して下さったヤマトグサ…これが！？？

言われなければわからない。ハコベに毛が生えたよう

- ハコベにそっくり、毛深いね…地べたにへばり着いてみたり、撮ったりして
いる私たちの姿を見て、「カタツムリのようだね、何見ているの？」
若いカップルや一般の人ものぞきこんでいました。
- 岩を登りつめると山頂で、ブナの芽がほころび、
ワア、スゴイ！ 本日の一番はブナの花！！
突き出た岩に立つと、877m の実感。その眺めは最高、
そして最高の笑顔を撮る。山頂の社にお礼も言わず下りる。
その社下で全員で記念写真を撮って、盛一担当指導員の挨拶で解散。
ロープウェイ組と登山組とに別れて下山。



※ 私は帰りは藤さんの指導のもとにドズンドスンと飛び降りないようにして、無事に下山、
帰着。

☆ つくば山でも保護の難しさが課題のようです。

☆ 田中先生、野村様、スタッフの皆様、ご案内、色々教えていて下さいまして本当にあり
がとうございました。筑波山を見る目が少しうきだしたような気がします。

☆ 担当の盛一樣、藤様、ご一緒下さった皆様お世話になりました。